

令和 6 年度使用

小学校用教科用図書研究資料（総評）

【生 活】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、身近な自然を利用した学習活動や郷土・地域の人々に愛着をもつことに関する学習活動を重視した構成になっている。季節を扱う単位では、夏・秋・冬・春で構成され、「春」においては、自然だけでなく季節による人々の生活の様子や暮らしの変化に目を向けさせ、自分自身や自分の生活について考えられるような配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を展開させるために、紙面下段の「学びをふかめる」や、学習活動や思考の流れを示した「学びのプロセス」に具体的な学びの姿が例として取り上げられており、児童の気付きの質を高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、実物大植物を掲載した「いきものずかん」と二次元コード「デジタルいきものずかん」など、具体的な例示や資料が設けられ、植物の成長を比較できる「パノラマページ」で成長や変化に気付かせるなど、学びを深めるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気付き、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、身近で取り組みやすい学習活動や学習材が重点的に取り上げられ、写真や挿絵、吹き出し、表現作品などで多様に示されるなどの工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気付きの質を高めさせるために、「かんさつずかん」、「かつどうべんりてちょう」に、見つける・比べる・たとえる・試す・見通すなどの気付きを関連付け、質的に高めるためのヒントをまとめたページが設けられるなどの工夫が見られる。</p>	<p>下 p2～7</p> <p>下 p14, 15 下 p36, 37</p> <p>上p121 上p28, 30, 32</p> <p>上p82, 83 下p34, 35</p> <p>上下巻末</p>

<p>4 大日本図書</p>	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、生命の尊さを実感する学習活動や、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動を重視した構成になっている。夏休み前は自然や生き物にふれあえる単元を配列し、まちの身近な人々について取り扱う単元を夏休みの後に配列することで、対象に連続的に関わり、その特徴やよさ・自分自身について深い気付きを促すような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「思考力・判断力・表現力などの基礎」を育成するために、自分の思いや願いを教科書に直接書くスペースや自己の感情を直接的に表情として描く「きもちマーク」などの書き込み欄が設けられており、児童の実態に応じた表現力などを高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、子供目線に立ったダイナミックで躍動感のある写真やイラストを掲載したり、「がくしゅうどうぐばこ」を設け、具体的な学び方を例示したりすることで、学習活動へのイメージをもち、主体的な活動に取り組めるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気付き、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、児童がすすんで身近な人々、社会及び自然の中から見つけた学習対象に働きかけ、自分の生活をよりよくしていこうとする「学びのプロセス」が自ずと成立するような構成の工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気付きの質を高めさせるために、キャラクターや教師が投げかける言葉の中に気付きの質を高めるヒントを示すことで、児童自身が自ら考え、気付きの質を高めていけるような工夫が見られる。</p>	<p>下 目次</p> <p>上 p34, 54, 55</p> <p>上 p36</p> <p>上 p 90</p> <p>下p116</p> <p>全体的に配慮</p> <p>上p56, 57</p> <p>下p28, 29</p>
----------------	---	--

11 学校図書	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、生命や自然を尊重する学習活動や伝統的な遊びや行事に愛着をもつ学習活動を重視した構成になっている。家庭生活に関わる単元では「家族へ感謝を伝える」という思いをもちながら活動を進めていく単元構成となっており、家の仕事に挑戦し大変さを実感しながら生活上必要な習慣や技能が身に付けられるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を展開させるために、単元ごとに主となるキャラクターを設定し、友達や身近な人々、自然の事象などに関わり合いながら学習を通して変容し、成長していく姿を確認できるようにするなど、児童の気付きの質を高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、季節や地域に合わせた「ものしり図かん」などの資料ページを設け、児童の自発的な言葉をもとにしたリード文によって、次の活動をイメージすることができ、自ら活動を広げることができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気付き、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、各単元の冒頭に魅力的な写真やイラストを使った「扉ページ」を設け、児童の期待感や、これから行う活動について意欲を喚起するような工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気付きの質を高めさせるために、各単元末に「もっと〇〇したい」を設け、長期的に継続した活動として設定されることで、児童が身の回りの様々な事象に繰り返し関わりながら、気付きを深めていくような工夫が見られる。</p>	<p>上 p94 下 p60, 61</p> <p>上 p15, 19, 21, 23 の右下</p> <p>上p68 下p34, 35</p> <p>各単元の扉ページ</p> <p>上p46 下p14, 15</p>
---------	--	---

17 教育出版	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、季節の移り変わりについての学習活動や自然の不思議さを実感する学習活動を重視した構成となっている。季節の自然を取り扱う単元では、「春」「夏」が一つの単元に設定されており、各季節の様子や活動したことを意識したり振り返って比較したりしながら、児童の気づきが高まっていくような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「思考力・判断力・表現力などの基礎」を育成するために、学習を通して感じたことや分かったことなどを自分の言葉で書き込む「なにをかんじたかな」、自己評価ができる「ぐんぐんはしご」など、児童の実態に応じた表現力などを高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、単元の冒頭にある「わくわくすいっち」で学習過程をイメージし、キャラクターと共に学ぶ「はっけんロード」で、セリフをヒントに学習を進めるなど、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気づき、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、単元導入「わくわくスイッチ」や、単元を貫く「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」が設けられ、学び方を身に付けて主体的な学びが展開できるような工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気づきの質を高めさせるために、各単元に、コラムでヒントが設けられ、見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの学習方法を繰り返して行えるような工夫が見られる。</p>	<p>上 目次</p> <p>上 p36, 37 下 p32, 33</p> <p>上p11 下p77</p> <p>下p61</p> <p>下p25</p>
---------	--	---

38 光村図書 出版	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、児童に生命を尊ぶ態度を育む学習活動や、身近な地域への親しみをもたせる学習活動を重視した構成になっている。町の公共施設を焦点化した大単元が設定され、利用したり、話を聞いたりする具体的な学習活動を通して、自分の地域への興味・関心を高め、それらの関わりなどに気付かせるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「思考力・判断力・表現力などの基礎」を育成するために、小単元に活動中の気持ちを思い出す「きづいた」「くらべた」などの観点を示した「ふりかえろう」を位置付けるなど、児童の実態に応じた表現力などを高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、絵本作家による個を大切にした言葉やイラストを掲載したり、学びに合わせて活用できる別冊「ひろがるせいかつかじてん」を設けたりすることで、児童が安心して自分の学びを進めることができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気付き、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、単元導入では、これまでの経験を想起し、活動の見通しがもてる問いかけが位置付けられていたり、身近な学習材の写真がダイナミックに配置されていたりするなどの工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気付きの質を高めさせるために、「まとめページ」では、対話での振り返りで学びを言語化し、単元全体をまとめることで、気付きを自覚したり、関連付けたりする児童の姿が示されるなどの工夫が見られる。</p>	<p>上 p30, 31 下 p58</p> <p>上 p23 下 p71</p> <p>上p6～8 下p51 上下巻末</p> <p>上p66, 67 下p34, 35</p> <p>上p28 下p83</p>
---------------	---	--

61 新興出版社啓林館	<p>(1) 生活科の目標を達成するために、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動や、命のつながり・命の尊さを実感する学習活動を重視した構成になっている。2年生の始めに「1年生をむかえよう」という単元が設定され、自分の既存の経験や思いを振り返りながら1年生の迎え方や関わり方に気付き、身近な人々に適切に関わることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を展開させるために、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成する単元の流れにより、児童の意欲を喚起し、直接体験を大切にしながら伝え合うなどの、児童の気付きの質を高められるような手立ての工夫が見られる。</p> <p>(3) 興味・関心を高めるという視点から、図鑑編集者監修の写真が掲載された「びっくりずかん」のページを設けたり、児童の気付きや思いや願いを次の活動につなげるための「めくり言葉」を表記したりすることで、見通しをもち活動が連続して進められるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 身の回りの事象に気付き、自ら関わっていく力を身に付けさせるために、「びっくりずかん」、「デジタルたんけんブック」などの資料により、児童が自らの思いや願いに沿って、学びを広げたり深めたりできるような工夫が見られる。また、活動への思いや願いをもち、気付きの質を高めさせるために、「めくり言葉」には、次はこうしたい、もっとこうしたいという児童の次の活動に向けての思いや願いが例示されており、学びが連続的・発展的に深まるような工夫が見られる。</p>	<p>上 p62, 63</p> <p>下 p6～9</p> <p>上 p4, 6, 12</p> <p>下 p62, 64, 70</p> <p>上 p34, 35</p> <p>下 p37</p> <p>下 p74, 75</p> <p>上 p53右下</p> <p>下 p107右下</p>
-------------	---	--